

2020年3月8日

福音書からのメッセージ

イエスは答えて言われた。「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」

(ヨハネによる福音書 3章 3節)

今日の福音書に登場するのは、ニコデモというファリサイ派の議員です。彼はユダヤ人たちの指導的立場にあった人でした。ある夜、彼はイエス様の元を訪ねます。

ファリサイ派は聖書にたびたび出てきます。その意味は、「他と区別する者」、自分は神さまに選ばれた者として正しい生活をするという強い思いの中で生きていました。そして正しくない者、罪人などとは一線を画す、そういう人たちでした。

ニコデモは夜にイエス様に会いに行きます。なぜ夜だったのでしょうか。もしみなさんがニコデモだったとしたら、いつイエス様に会いに行くのでしょうか。わたしがもしニコデモだったとしたら、夜に会いに行ったと思います。昼間だったら、仲間たちの目があるかもしれないからです。「自分は正しい」という気持ちが強ければ強いほど、そのように思ってしまうのかもしれない。また夜だから時間を気にせず語り合えるという理由もあるかもしれません。ただニコデモは、イエス様のことを、「神が共におられる」方だとして認識していたようです。

イエス様はそんなニコデモに、三度同じ言葉を繰り返します。「はっきり言うておく」。この言葉はこう訳してしまうと、イエス様の気持ちがきちんと伝わらないように思います。原語どおりに訳すとこのようになります。「アーメン、アーメン、わたしはあなたに言う」。ここには「しっかり聞いておけ、今から大事なことを言うぞ」というイエス様の思いが感じられるようです。ではイエス様はニコデモに、何を伝



えようとされたのでしょうか。それは、「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」ということです。

「新たに生まれる」。そう聞いて、ニコデモはもう一度赤ちゃんとして生まれることを想像しました。確かにそれは間違っていない。でもそれで十分ではありません。というのも、この言葉には、二つの意味があるからです。その一つは「再び」。これはニコデモのイメージと通じるものがあると思います。そしてもう一つは、「上から」というものです。つまり「人は新たに生まれなければ」という言葉は、「人は上からの力で生まれ直されなければ」と読むことができます。上からの力です。自分の力ではなく、神さまからの力によって、生まれ変わるのです。

今自分も持っている全てを捨て、手放し、そして神さまにすべてを委ねる。そのときに神さまは、わたしたちを新しくして下さる。それがイエス様の伝えたかったことではないでしょうか。

そしてその独り子をお与えになったほどに世を愛された神さまは、わたしたちすべての人が、一人も滅びないことを望まれています。その思いによって、わたしたちは生かされているのです。

そしてその独り子をお与えになったほどに世を愛された神さまは、わたしたちすべての人が、一人も滅びないことを望まれています。その思いによって、わたしたちは生かされているのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>